保　健　体　育

第1節　概　　要

保健体育課においては、昭和43年度に引き続いて、県教育委員会の努力目標「体育・スポーツの振興と健康、体力の増進」をめざし、2百万県民の体力の向上、健康の増進のため、保健、体育、給食の分野で施策の推進にあたり多大の成果を収めることができた。その概要は次のとおりである。

1　学校体育指導の充実

本県の児童・生徒の体格、体力は年ごとに向上しているが全国的に見てさらに向上の余地があるので、学校体育指導の充実をはかるため、各種実技講習会、学校体育研究大会、体育研究指定校の研究発表会の開催や学校訪問による指導等により指導者の資質の向上に努めた。

また、学習指導要領の改訂期にあたり、あらたに総則第3体育が設けられ、体育の位置づけ方によっては、今後の学校教育に影響することが多いと思われるので、関係者でこの運用について検討し、総則第3体育の趣旨をじゅう分生かす体制を整えていきたい。

2　スポーツ選手の競技力向上

スポーツ選手の競技力向上については数年来継続的に努力してきたが、本年度の長崎国体では天皇杯得点22点をあげ20位から15位に躍進した。また、国際競技会にわが国を代表として出場した選手も例年になく多く、自転車競技の太田、明珍、陸上競技の吉田、スキーの渡部、重量挙の大内選手等が大いに活躍したが、これは年来の努力が実り、本県の競技力向上を物語るものである。

また、昭和47年度全国高校総合体育大会が山形市を中心に開催されるが、本県内では5種目開催が予定されており、さらに、昭和49年2月の国体スキー競技会を猪苗代町に誘致するので、これらに備えて、さらに選手の強化に努めてまいりたい。

3　社会体育の振興

産業構造の変化、労働の質的変化、生活環境の都市化等にともない、人間の生活が脅かされることが多くなり、体育・スポーツの必要性が認識されつつあるとき「県民皆スポーツ」を目標に、関係団体の育成、指導者の養成、簡易スポーツの普及等に努めた。特に、43年度より県体種目として実施した家庭バレーボールと40才以上のソフトボールは、昨年度25市町村で予選を実施したが、本年度は45市町村と急激に普及してきた。しかし、この数は市町村数の半数であるので、さらに普及に努力してまいりたい。

4　体育施設の整備

体育・スポーツの振興に欠くことのできない施設の充実をはかった。本年度県内にプール46、体育館6、柔剣道場6、グランド1等の新設の他、いわき市に県営陸上競技場着工の運びに至った。

また、県スポーツ振興審議会に諮問していた総合体育センターの設置場所についても福島市に決定をみたので早急にこの建設にかかりたい。

5　学校給食の充実

昭和44年度における学校給食施設設備の整備状況は、43校、17,000人分について行なわれたが、特徴としてその大部分（35校13,300人分）は共同調理場方式を採用したことがあげられる。今後の各市町村教育委員会における計画のなかでもこの傾向がうかがわれるが、共同調理場方式は、日も浅く、適正規模、運営方法等について、研究の余地が多く残されている。従って、共同調理場方式採用の効果を高めるため、個個の共同調理場における研究はもちろん相互研究の機能をもつ研究組織をもつ必要があろう。

学校給食の食事内容は、一般家庭における食生活の向上と対応して、食品構成、栄養確保の面での改善が行なわれる必要があり、特に、適正給食費の確保と栄養職員の配置が望まれる。

また、昨年に引き続き学校給食における米の利用についての論議も盛んなものがあったが、文部省においても、実験の段階を経て今後の方向を見出す方針をうちだしており、県としても経緯をみながら態度を決定して行くことになろう。

給食指導については、教育課程のうえで、特別教育活動のなかの学級指導として位置づけられ、従来にまして明確にされている。県としてもこの重要性を考慮し、昭和44年度より4校を学校給食研究指定校としての指定を行ない、2ヵ年継続の研究を行ない、県内の学校給食指導徹底のための資料を得ることとした。

6　学校保健の振興

学校保健研究指定校による研究の推進および大沼郡本郷町において開催した第17回福島県学校保健・安全研究大会は、学校保健の振興に大いに貢献しているものと考える。

本県の学校保健についての水準は、全国的にみて、決して劣ってはいないが、地域または学校による格差は、また大きく、その解消については、今後の努力にまつところ大である。

7　学校環境衛生指導の強化

学校環境衛生の維持改善については、学校薬剤師の協力に待つところが非常に大なので、職務内容及び公害等の当面する諸問題について研修の機会を設け、学校環境衛生検査の実施の強化と学校薬剤師の資質の向上をはかった。

8　学校病対策の強化

学校病のうち、寄生虫・トラホームについては漸減しているが、う歯、近視は年々増加する傾向にある。

学校病の撲滅には、毎年努力しているところであるが、治